

東京都現代俳句協会会報

発行人 今野 龍二
発行所 東京都現代俳句協会
〒113-0033 文京区本郷5-3-2-302
長谷川はるか
TEL-FAX 03-3814-1228

たつすいはいかん

松田ひろむ

私は「現代俳句」2025年2月号「現代俳句とは何か『昭和一〇〇年の今、考える』で「シン現代俳句」への期待を書いた。私自身も含めた現代俳句への叱咤激励の気分である。

そこで思い出したのは桂信子（1914-2004年）である。桂信子は現代俳句協会の総会などで「最近の俳句は、つまらない」とズバズバ切って気持ちよかった。『証言・昭和の俳句』でも「おいお茶」や、黛まどかの「ヘッバーン」をあげて「あんな俳句と一緒にされては困る」「俳句には命がこもってない」とね「永遠のもの」「消えないものが。そういうものを詠いたい。詠うべきだ。」という。桂信子の句は女性の情念を詠んだ句が多く、それはそれで時代を切り開いたものである。しかし、こ

こでは（こ）はん粒よく囁んでゐて桜咲く（「草樹」）の1句をあげる。

その桂信子の思いに私もいま強く共感する。「鷗座」の平明清新・叙情・生活感覚が桂信子の指摘に応えるものであれば幸いである。

ところで現在放映中のNHK朝のテレビ小説「あんぱん」は私の出身の高知が舞台である。そのドラマで「たつすいはいかん」があった。そうだこれだ、これが現代俳句にも当てはまると膝を打った。「たつすい」とは弱い、元気がないとネットでは解説されているが、私の理解では「薄い、気が抜けた、味が無い」という味覚として使っている。実はこれはキンビールの高知限定コピー。アサヒのスーパードライへの挑戦である。このコピーで2001年に高知県内1位を奪回している。

たしかに最近の俳句には「たつすい」ものが多い。現代俳句協会と名乗るからには、それに

応えるものが欲しい。ましてやその東京都区である。ここでは管見ながら2025年の共鳴句をあげる。

まずは「戦と平和」の句である。

八月六日八時を過ぎし自動ドア
筈の菩薩ともはた砲弾とも
池田 澄子
衣川 次郎

比類なき春よ弾痕の父のしむら
鳥居真里子

感性の句をあげる。

みちのくは異形尊し芋頭
高野ムツオ

腹筋で支ふる悲歌や花ミモザ
佐怒賀正美

指銃に狙われやすき寒の薔薇
清水 伶

丸腰の教師に燕返しかな
行方 克巳

憎越ながら「鷗座」の仲間の句をあげる。

寒菊を括り上げたる被団協
宮 沢子

夫婦別姓球根の穴を掘る
小平 湖

七色の多様性とか根深汁
田辺 花

寒晴の空やつながるガザの空
磯部 薫子

まほろばの陥没道路飛花落花
川崎 果連

戦場のすべての武器に袋掛
後藤よしみ

麻痺の手のやわらかすね花木
高矢 実来

俳句の大衆性は大切にしつつも、本物の確かな現代俳句を目指したいものである。

「たつすいはいかん」

特別企画

23区内に本拠地を置く

結社・俳誌・句会

あなたの近くに学びと交流の場がー

◆「秋」俳句会

主宰…佐怒賀正美 副主宰…小笠原至

編集長…安達昌代

練馬区小竹町1-44-8 佐怒賀正美

FAX…03-6760-9873

「秋」は昭和36年10月に創刊。創刊時の同人代表は松澤昭。1年後に主宰制に変わり、初代主宰は石原八束、2代目文挾夫佐恵、3代目を佐怒賀正美が継承している。石原八束の出発点

が、俳句を飯田蛇笏、詩や文章を三好達治に学んだことから、「秋」では俳句だけでなく、文章（随筆・批評文）を書くことも大切にしてきた。石原八束は内観造型を主張したが、それは自然などの外部の写生のみにとらわれず、内面の世界をイメージとして描き出すことでもあった。ただ、八束は内観造型句だけ詠むのではなく、まずは伝統俳句の季語・切れ・五七五の定型感など写生の基本をしっかりと身につけた上で、現代詩的な暗喩や象徴の世界へと進むことを唱

導したのであった。石原八束の俳句の特質の一つは、とにかくよく「旅」をしたことで、国内はもちろん、さらに欧米、エジプト、中国など国外へも足を運んで、各地の文化の深さに立脚した世界を感じ取り、俳句に新しい世界をもたらそうとしたことである。一方で、若いときに師事した三好達治の全詩集の編纂など、文芸的な世界に耽溺しながら、その一領域である俳句にもロマンを求めた。尚、2代目主宰の文挾夫佐恵は99歳の時に史上最高齢で蛇笏賞を受賞している。現在は、佐怒賀正美を中心に来年の創刊65周年に向けてコンクールなどの諸企画を立案中。日常生活を大事にしながらも、内観世界をさらに広げる現代性を取り込んだ宇宙観を大事にしている。

◆「豈」

発行人…筑紫磐井

杉並区井草5-10-29 國谷方 豈の会

TEL…03-33394-3221

攝津幸彦を中心に1980年16名の同人により創刊された。アクティブでラジカルな表現の場を目指す現代では特異な雑誌である。自由律作家、歌人、川柳作家にも門戸を開いている。攝津は1996年に49歳で亡くなったが、多く

の若い作家に慕われた。大本義幸、大井恒行、しより大、長岡裕一郎、中島健二、西川徹郎、藤原龍一郎を創刊同人とし、その後、倉阪鬼一郎、高山れおな、池田澄子、五島高資と長くコンスタントに活躍している同人も多いが、近年、創刊同人の多くが逝き、宮入聖、岸本マチ子、須藤徹、秦夕美、高橋比呂子、救仁郷由美子、大橋愛由等、渡辺伸一郎、北川美美と物故者も多い。「豈」創刊以前は、攝津は、坪内稔典、澤好摩、伊丹啓子らと「日時計」を創刊し、その後、盟友大本義幸の発行する『黄金海岸』によっていた。このように前衛系雑誌の系譜を継ぎながら、創刊45年目を迎えた雑誌は珍しいだろう。攝津自身、これら同人誌のみによって『姉にアネモネ』『鳥子』『與野情話』『鳥屋』『鸚鵡集』『陸々集』『鹿々集』『攝津幸彦全句集』（没後）の句集を上梓した。

現在同人は70人を超えているが、過激な後期高齢者が多く、特に同人募集は行っていない。

◆「鵬座」

代表…松田ひろむ

鵬座は故古沢太穂（2000年3月2日逝去）の志である平明清新・叙情・生活感覚を受け継ぎ2001年8月に創刊。代表は松田ひろむ、

編集長…石口榮、副編集長…後藤よしみ、同人
会長…小高沙羅。月刊、誌代1年12,000円。
(見本誌無料進呈)

発行所…〒174-0046 東京都板橋区蓮

根3-12-27-1110

電話&FAX…03-33968-0153

メール: aladdin1938@outlook.jp

http://plazarakuten.co.jp/kamomeza/

句会(は東京都板橋区(3回)・豊島区(1回)、
杉並区(1回)、松田ひろむ俳句研究会、東京
さんぽ句会、また新型コロナウイルス感染拡大
を機に2020年より始めた鷗座通信句会を含
め月8回開催。

東京さんぽ句会(は都内各地を尋ねての吟行句
会、松田ひろむ俳句研究会では俳句だけではな
く、随筆の発表、日本の名随筆集を配布し朗読
を行っている。新型コロナウイルス感染拡大を
機に2020年より「鷗座通信句会」を月1回
開催。全句会とも松田ひろむ代表による全句講
評があり、初心者に分かりやすくベテランにも
勉強になると好評である。さんぽ句会、俳句研
究会、通信句会(は超結社的な句会であり自由に
誰もが参加できる)。

年間賞として同人賞、鷗座賞、新風賞、年度
作品賞として最優秀作品賞、優秀作品賞を設

け毎年12月の忘年会の席で表彰式を行っている。
そして2026年は創刊25周年を迎える。

十二月八日墨たつぷりと御名御璽

松田ひろむ

能登の水掬えば涙明日も雪

松田ひろむ

レノンの忌囃星雲に胸ざらし

松田ひろむ

やと秋やと人間らしくなる

小高 沙羅

万緑へどでもドアを開け放つ

石口 榮

戦場のすべての武器に袋掛

後藤よしみ

◆「山河」

創刊75周年の同人誌

代表…山本 敏倅

山河は昨年創刊75周年を迎え、来年6月で通
巻400号になる、隔月刊の同人誌である。小
倉緑村初代表から加藤あきと、松井国史を経
て、現在山本敏倅が代表を担っている。同人60
名、会員20名、誌友8名の小さな俳誌だが、俳
句への情熱と研鑽だけはどこにも負けないエネ
ルギーを秘めている。

句会(は11句会。代表始め、山河の運営委員が
それぞれ講師となって派遣されている。

講師陣の最近の句を紹介する。

春の雪言い残したことないですか

山本 敏倅

白梅や輪廻転生から抜けて 植田いく子
日の丸の汚点を隠す柿若葉 一井 魁仙
万の手首八月の水救う 岡田 恵子
もの思ふ手掛かりとしてまず端居

中山 愚海

素粒子てふポエジーに無縁な蠅

榎並 恵那

誌面は、山河集(同人)、溪流集(同人・会員)

の作品欄。課題を設けてのチャレンジ俳句、外

部の参加者を含め競い合う通信だれでも俳句等

を中心に、参加型の誌面構成。他に外部の寄稿

者や特集としてテーマを設けての同人のエッセ

イ等々、盛りだくさんの内容になっている。

また年1回の山河賞(同人)・溪流賞(会員)

の賞を設けて、山河全体の機運を常に鼓舞する

よう企画している。

主要同人の作品

ピアノを燃やす夏蝶は寝ている 土屋 秀夫

さらわること待ちわびて桜貝 古寺ななえ

炎天へ重心をかけ岩波書店 吉田 慶子

死に場所をコップに決めた凍蝶 桜井万希子

竹の秋楽譜にはない息遣い 山田ひかる

冴返るいつも焦土のある地球 栗原かつ代

発行所…荒川区東日暮里 3-34-10

TEL…03-3801-1656

◆俳誌「四季」

代表：松澤雅世。昭和38年7月、四季大空館成
立。四季書房を創立する。季刊句集「四季」第1号号
を刊行。この句集は四季会文学運動の第1弾とし
て世に問うた。翌昭和39年1月1日、主宰誌
「四季」を創刊。当時の主幹は松澤昭。企画運
営は、主要理事制を敷く。

松澤昭の創刊言は「純粋造形型」を提唱
 テーゼを鮮明にして敷衍した。誌面は実作活動
 に重点を置きながら俳句界にも着目。総合誌は
 じめ、俳誌に加えて、上梓された句集の鑑賞・
 書評の連載がされた。また、鋭利なエッセイは
 「四季」のオリジナルとして注目を浴び、多彩
 な誌面作りが話題となった。松澤昭は30代であ
 り、傘下に集まった会員も20代・30代が主流の
 若く清新な結社の船出であった。創刊翌年より
 「四季賞」・「年度作品賞」の顕彰も設け、その
 後「宅居賞」・「四季大賞」を新設し、会員の研
 鑽目標となった。

昭和平成6年東京都現代俳句協会会長に就任。平成12年からは現代俳句協会会長に就任した。現主幹雅世は、編集長・副主幹を経て平成16年主幹となり現在に至る。また平成24年より東京都現代俳句協会会長を務め、現在は常任顧問。

令和5年「四季」は創刊60周年を迎えた。記念号はもちろん、四季書房より記念出版として主幹句集「陰陽」、伊東類理事長句集「百虫詠」、広井和之副理事長句集「覆水」を出版。一つの大きな節目を修した。現在では隔月刊。作家個々の作品を希求しながら、会員諸兄姉と邁進。

◆同人誌「にん

代表..新井大介

〒166-0015 東京都杉並区成田東

4
|
3
|
5
|
1
1
7

新井大介方　　にん発行所

Email: arai.daisuke@jp.kline.com

「にんに」 創刊号の巻頭言『俳句の俳とは
非日常です。日常の中で、もうひとつの日常を
つくることです。俳句を諸語とか滑稽など狭く
解釈しないで、写実だとか切れ字だとか細かい
ことに終わらないで、もっと俳句の醸し出す香
りを楽しんでみませんか。』です。

創刊号の巻頭言にある通り、俳句を自由に楽しむために「にん」はあります。面倒なことはさて置き、先ずは俳句を楽しみたい方ならどなたでも同人会員として受け入れております。

季刊誌「にん」は2000年9月に創刊され、以降年4回の発行を着実に重ねてきました。

おかげさまで本年10月1日発行の秋号がちょうど創刊100号にあたり、現在記念特集を鋭意編集中です。実に25年の長きにわたり「にん」は続いており、さすがに感慨深いものがあります。創刊代表は岩淵喜代子、その後2024年に新井大介が代表を引き継いで現在に至っております。

都内を中心に定例句会をいくつか開催し、首都圏を中心に毎月吟行会を実施しております。加えて同人会員が講師を務めるカルチャー教室もいくつかあります。季刊誌では俳句並びに俳句に対する評論やエッセイ等を発表する場を提供しております。「にん集」兼題5句、「ざざん集」当季雜詠5句、毎号合計10句を同人会員の方々は発表します。

正直に申せば、同人会員の高齢化が心配です。逆に若返りを図ってゆく必要があります。今後いろいろな取組みを通して「にん」の活動範囲を広げ、より活発に活動して行こうと考えております。

◆「麦」

会長 対馬康子

埼玉県越谷市北越谷3-12-6 藤井方

麦の会
田中朋子

TEL : 048-975-8725

Fax : 048-975-8725

http://mugidakarahatenablog.jp/

メール問い合わせ先:

sorandate.dayo@gmail.ne.jp (中山宙史)

見本誌(無料にて進呈)、学生は会費無料。

お気軽にお問い合わせください。

「麦」は戦後間もない昭和21年中島斌雄(なかにまたけお)1908年~1988年)により創刊。令和8年(2026)9月に創刊80周年を迎えます。

「麦は大地であり季節であり又生活である」という「麦」創刊の言葉を胸に、「俳諧自由」をかかげ、会員一人一人が楽しく個性を発揮する場でありたいと願っています。

誌面では雑詠欄の他に、斉田仁選による初心者投句欄も充実。東京例会を毎月第2日曜日に新宿区曙橋に行っているほか、インターネットト句会や東京研究会、吟行会など全国に句会があります。

現会長の対馬康子は、産経新聞俳壇(毎週木曜日の掲載)、「俳句界」雑詠の選者、また角川俳句賞、俳句四季大賞など様々な選考委員を務めており、本年11月1日の「ねんりんピック彩の国さいたま2026開催プレ大会」において講演いたします。

俳句は抒情詩であり、内面の具象を詠むもの。俳句活動を通して共に心を開放しませんか。

◆「門」

代表者・鳥居真里子

所在地・〒120-0045

東京都足立区千住桜木2-17-1-

321

連絡先・03-3882-4210

昭和62年1月、鈴木鷹夫が東京で創刊。

師系石田波郷、能村登四郎。俳と詩の融合を

志し不易を心に挑戦する。俳句は変幻自在である

ことをモットーに個々の表現活動の作家集団

であることを目指す。本年より隔月刊。結社の

賞である、「門賞」「同人賞」は句集に対しての

もの。会員の年間成績に対しては「新人賞」。20

句競作には「東門賞」がある。

◎第37回「東門賞」より 加藤 閑

手の中で羽化する揚羽愛を告げ

白はすにカロンの権のしづけさよ

逸楽の演技者たらんと蛇殺す

◎第38回「東門賞」より 垂水文弥

鶴に恋ありまほろばとちひさきいふ

ソフトクリーム一緒に死んでくれますやうに

われに狼に喉仏とふ孤塔

「東門賞」は1句1句の勝負と違い、それだけの豊かな個性がぶつかり合う場だ。まずは、挑戦をすることに意義がある。

7月号の同人作品より

墮落論不老不死論校令

あつとう的治癒力蒲公英の辺り 野村東央留

松の花臓腑噴き出したまま立てり 村木 節子

遠足の列にはいい子しか要らぬ 中島悠美子

浮寝鳥水輪の芯でないところ 佐々木 歩

魚氷に上るこの世界の鱗千切る 桐野 晃

中澤 美佳

◆「楽園」(楽園俳句会)

堀田季何(主宰。但し、代表ではない)

主宰及び編輯長は東京都在住ですが、お問合せ、ご連絡は、HP経由でお願いいたします。

https://horie.jp/eden/

楽園俳句会は、有志により、2020年の

春に結社された。疫禍により、俳誌は、1年後

の創刊となった。非常にフラットな結社であり、

会員は主宰の弟子とは限らないし、協会や結社

のかけもちも自由である。そのため、主宰の師

系と無関係の会員も多い。

多くの会員は、俳諧自由の精神を大切にし、

伝統・前衛・定型・自由律、有季・無季を問わ

ず、古きに学び、新しきを志している。俳句を始めたばかりの初心者から、句集を出版したり、俳壇の賞を受けたりしている者まで、幅広く在籍している。結社賞として、応募制の楽園賞を設けている。

句会とは、首都圏に对面の句会が複数ある他、国内外から参加できるオンライン句会も毎月開かれている。今後、全国各地に支部を増やしてゆく予定である。その他、連句会も存在する。年会費は、1万2千円。同人費は別に徴収しない。現在、会員には、隔月で電子発行される「楽園」（メールアドレス必須）および年に一回発行される紙の「楽園」湊合版が届けられる。毎号、2つの欄に、オンライン・フォームを使って投稿できる。

◆「瓏玲」

今野龍二が中内火星と令和元年4月に創刊、7年目を迎えた。師系なし。本年全国俳誌協会第31回全国俳句コンクールにおいて、最優秀結社賞。2位以下の結社は100名以上の大結社である、わが瓏玲は18名で創刊したのだが現在35名の会員が在籍している。もちろん現俳の全国大会でも毎年多くの上位入賞者を出している。「瓏玲」の意味は宝玉が才能が触れ合って美し

い音色を出すこと。「玲和」の英訳がビューティフルハーモニー、瓏玲と全く同じであることに驚いたり喜んだりした。

よく言われるのが7年で会員を倍増してよくここまで育て上げましたねと。実は元から俳句の上手な人が入会してくれただけである。どんな育て方をと聞かれるが立派な方針などは持ち合わせていない。あえて言うならば「放し飼いの」。広大な俳句の荒野を自らの意思で自らの力で切り開いている人ばかりである。ときどき迷える羊が帰ってこないこともあるのだが、それはそれでどこかで大きくなつてくれればと願うだけ。つくづく思うのだが俳句の縁は無限、ここまでいい俳縁を沢山戴いてきたものだと身に余るほどの良縁ばかりである、私のまわり集う仲間にもさらに上のステージで活躍できるようにと、そのような場と縁を提供し続けるつもりではいる。私は頼まれると断れない性格でカルチャーセンターとか新たな句会のお世話とかで月に10か所ほどの指導らしきものはしているのだが、瓏玲会員だけの句会は年に1〜2回しかできていない状態でこれは改善しなくてはならない、少なくとも月に一度はと思つてはいるのだがなかなか。かつて現俳の全盛時代に金子兜太は数は力であり量が質を生むといった

が、兜太は「奢る平氏は久しからず」は失念していたようだ。「瓏玲」は数を恃まず「放し飼いの」。あの日帰ってこない子羊が家族を連れて帰って来るかも知れない。

令和7年発展基金寄付者芳名

（6月1日から8月31日分まで。敬称略・順不同）

ご支援ご協力を深謝申し上げます。
なお今後も引き続き募集していますのでご協力をお願い致します。

十口	三〇
古寺ななえ	渡部 愛子
匿名	神田美千留
五口	小山 園子
石口 榮	一口
榎並 恵那	山地春眠子
渡邊すみれ	匿名
伊達 公子	
大橋 愛子	
渡邊すみれ	

※氏名の重複は複数の寄付によるため。

スクランブル通信句会 (偶数月開催)

2026年の参加者募集！ 引き続きよろしく!!

協会員でなくても、どなたでも参加できます。

参加申込：原則としてメールによる投句、郵送・FAXも可。

投 句：当季雑詠・3句

投句締切：2月20日締切。隔月(偶数月)の開催。(毎回当該月20日が投句締切)

互 選：参加者には後日、清記表を送付。

6句選(内1句特選)、特選コメント(50字以内)記入。

メールによる選句(郵送・FAX可)

結 果：翌月(奇数月) 5日～10日頃に句会報発行。

参加費：1年分(6回分)一括払いで5000円のみ受付。

但し、途中不参加の場合でも返金はしません。投句と参加費の受領確認をもって参加とします。(20日厳守)

振込の場合は下記口座をお願いします。

申し込み時に、氏名、住所、電話番号、メールアドレスを明記。

投 句 先：榎並 恵那

E-mail enasan_1948.2.19@kbh.biglobe.ne.jp

〒157-0071 東京都世田谷区千歳台6-16-7-1207

TEL/FAX 03-6324-2023、携帯 080-5655-0342

振込口座：ゆうちょ口座 00130-5-636092

長谷川寛子 ハセガワヒロコ (同封の振込用紙をご利用ください。)

振込手数料はご負担ください。

ビッグバン通信句会 (奇数月開催)

2026年の参加者募集！ 引き続きよろしくお祈いします!!

協会・結社にこだわりません。どなたでも参加できます。是非ご参加ください。

参加申込：メールによる投句に限る。(郵送・FAX不可)

必ずメールアドレスの登録をお願いします。

投 句：当季雑詠1句、詠込句1句(必ず2句出句)

投句締切：1月20日締切。隔月(奇数月)の開催。(毎回当該月20日が投句締切)

互 選：参加者には後日、清記表をメールにて送付。

当季雑詠・3句選(内1句特選)、特選コメント

詠込句・2句選(内1句特選)、特選コメント

メールによる選句。(郵送・FAX不可)

結 果：翌月(偶数月)の5日～10日頃にメールにて結果報告。

投 句 先：高橋 透水

E-mail acenet@cap.ocn.ne.jp

奇数月の1日にメールにて投句依頼をします。

メールに記載のURLをクリックしてフォームから投句。

参加費：1年分(6回分)一括払いで3000円のみ受付。

途中から参加は回数割。但し、途中から不参加の場合でも返金はしません。

投句と参加費の受領確認をもって参加とします。(20日厳守)

振込は下記口座をお願いします。

振込口座：ゆうちょ口座 00130-5-636092

長谷川寛子 ハセガワヒロコ (同封の振込用紙をご利用ください。)

振込手数料はご負担ください。

第41回高田馬場「夏」句会報

令和7年7月1日(火)

兼題「百日紅」・席題「神」

蒸し暑い中、31名の方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

(高得点句)

1 百日紅犬にやさしき反抗期 讃岐 幸江
 2 素つぴんの君はべつぴん百日紅 馬場 龍吉
 3 色褪せし伝言板や百日紅 見目 千絵
 4 白寿なお余熱の冷めず百日紅 川目 智子
 5 百日紅次女が継ぐとか町工場 米原 拓土
 (以下順不同)

蛸のあと前景を欠く神社 菊池ひろこ
 いち日に三たび敬礼百日紅 北村眞貴子
 ハンドルには「駐輪禁止」百日紅 安藤 草太
 いちにち強気故郷に百日紅 赤澤 敬子
 神鳴で終る野外の研修会 蓮尾 碩才
 白南風やあのひとは神経過敏 長谷川はるか
 みちのくに金色の神ひつじぐさ 山口 紀子
 青木湖の涼風の先神住むや 藤井 圭子
 少年の夏神妙に上の空 櫻木美保子
 萩邸の恋や白花さるすべり 松田ひろむ

高田馬場「冬」句会のご案内

日時 令和8年1月6日(火)
 12時半 受付開始
 会場 費 1,000円
 JR高田馬場駅前Fビル8階
 兼題 「初空」又は「初御空」
 席題は当日揭示

句会内容 2句投句・互選6句内1句特選
 参加申込 見目千絵(定員34名)

TEL 090-4225-0989
 (シオートメールによるお申込みの際には
 ご自分の氏名をお書き添えてください)

百日紅散つて咲いて夫との誤差 青木 栄子
 毛虫焼く神も仏もあるものか 坂本 君江
 せせらぎを欲してならぬ百日紅 松澤 雅世
 日傘にぬつと神来て相合傘 中内 火星
 はたた神おんなの嘘はむらさきに 今野 龍二
 神宮の花火大会一人呑み 渡邊すみれ
 咲くまでは目立たぬやうに百日紅 上野 英一
 ままことの花びらひとつ百日紅 大橋 愛子
 子に還るふたりの時間百日紅 相沢 幹代
 熱帯夜非在の神の揺らす風 山崎 百花
 平凡な人の平凡さるすべり 遠山 弘美
 妻は今もガールフレンド百日紅 石口 榮

編集後記

原爆投下から80年。最近、米調査機関「ピュー・リサーチ・センター」が、広島、長崎への原爆投下に対する評価を米国民に尋ねた世論調査では、「正当だった」という回答が35%、「正当化できない」は31%で、「分からない」も33%に達したという。正当だったという評価は前回2015年調査の56%から大幅に減少。ただ、正当化できないとの否定的答えも前回の34%から3ポイント減った。「戦争を早く終わらせ、犠牲者をこれ以上増やさないためだった」という論理が揺らいでいるのだろうか。川崎果連

広報部・編集室

〒135-0016 東京都江東区東陽
 1-30-8-404 川崎果連方
 TEL 090-7410-9543
 メール: karen.kawasaki2016@gmail.com